Omitama

きらりびと

■ 編集後記

卒業や入学と、家族の写真を撮る機会も増えてきました。おみたマガジンの取材をするときは、カメラマンと同行します。そのときに作品を見せてもらったり、撮影のコツを聞いたりして私も楽しんでいます。おみたマガジンにこれからもたくさんの笑顔を載せていきたいです。(加藤 篤子)

■ みのンぱ編集局

編集長　藤田 佐知子
記　者　遠藤 雅樹、加藤 篤子、瀧澤 比佐乃、福島 ヤヨヒ
　　保田 孝雄
カメラマン　赤上 惠、齋藤 友幸、橋本 笑優

■ アートディレクター／デザイナー　清水 すず菜（つばめ座）

小美玉市の文化・芸術 総合情報誌 おみたmagazine 第179号

〒319-0132 茨城県小美玉市部室1069 TEL：0299-48-4466
【企画・取材】みのンぱ編集局（四季文化館みの～れ内）
【編集・発行】小美玉市生活文化課　令和6年3月28日発行

小美玉文化情報
日々発信中！
アピオス
みの～れ
コスモス

小美玉市の
文化・芸術 総合情報誌

TAKE FREE
おみたマガジン
第179号
March.2024

おみたmagazine

OMITA MAGAZINE

アートと交わる
わたしがひかる

撮　影：赤上 惠
モデル：近田 由美、安達 将伍、
　　椙山 早紀、西川 礼子

しあわせ、ここから新しい広場へ

劇場を開く

撮影：赤上 惠
取材：瀧澤 比佐乃

「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（通称：劇場法）」の
前文には、劇場や音楽堂を「新しい広場」とし、
コミュニティを創り出し地域の発展を支える機能と役割が
期待され、国民の生活の公共財であると位置づけられました。
新しい、とはどういうことでしょうか。
劇場が広場、とはどういうことでしょうか。
「新しい広場」実践者として全国に名高いお2人に聞きました。

全国公立文化施設協会コーディネーター
Masahiko Mito ×

香川県丸亀市文化課長
Tsuyoshi Murao

自ら考え動く住民自治を生み出す場（村尾）
その人の長けた能力を生かせる場（水戸）

水戸　「新しい広場」と聞き、皆さんはどのようなものをイメージされますか？人が集まるところ・・・？今まであった公園やコミュニティと大きく違う点は、「新しい」ことを体験し、感動する広場であるということだと思います。

未知の体験をするわくわく感は、創造力を引き出します。新鮮なことに触れたり何かを感じ取るとき、脳の中の前頭前野が活性化します。美的感覚が働いたり、物事の善悪を判断したり、いわば人間が人間らしく生きるための作用です。感情のコントロール、他者とのコミュニケーションの舵をとるのもこの部分。平和な世の中を創っていくために大きく関係しますね。ホモサピエンスが生き残った理由は、「共生」を選んだことにあります。**いかにして他者と共に幸せに生きていくか、どう生きたら楽しいのかを考えるとき、文化芸術は大きな役割を果たす**のです。

「新しい広場」とは、小さな子どもから障がいの有無にかかわらず、あらゆる環境にいる誰もが歓迎され、誰もが楽しく時間を過ごせる場所であると思います。**人には必ず何らかの分野で長けた能力が備わっていて、それを生かせる環境づくりも大切**です。文化芸術はそれを提供できる最良のツールなのです。

全国には2,000～3,000のホールがありますが、未知の体験ができるよう取り組んでいるところはまだまだ少ない状況です。鑑賞事業だけでなく、住民が主体的に活動することを目指す小美玉市の文化ホール事業はこの中の一つに数えられます。多様な価値観を持った人が集まって作品を創り出すとき、試行錯誤や葛藤の中で他者の意見を尊重しながら考えをすり合わせ、最後にはみんなで今まで味わったことのないような新たな感動体験をしていますね。**地域の力は観光資源や特産物ではなく、住む人たちが幸せであるか否か**で図られるべきだと思います。ここに住む人たちが、どんな活動をしているのかが最も大切です。全国の中でも飛び抜けた存在である「小美玉市の住民主体による文化事業」を、住民の意思でぜひ続けていってください。

村尾　小美玉の文化に関わる人たちに実際に会って、「文化ホールに集う人々の熱量を肌感覚で知りたい」「なぜそこまで一生懸命になるのか？」を聞いてみたいと思い、小美玉を訪れました。人が集い「やってみたい！」と思う気持ちからは、自ずと新しい「もの」や「こと」が生まれてきます。私は住民がいきいきと活動し、作品を創り出すプロセスに魅力を感じています。**住民がどれだけ熱をもって主体的に参加・参画しているかが重要**で、**自ら率先して活動に関わることが自治につながり、文化を基盤とした社会を創るという理想を実現することができる**と考えています。今回の訪問で、事業に参加・参画している皆さんから直に話を聴き、試行錯誤を繰り返して創り上げた作品を観たり、スタッフの皆さんや客席の様子を見たりと、言葉どおり肌で触れることができました。参加者自らが地域の魅力に光をあてる企画を立案し、仲間を集め、活動資金も協力を呼び掛け、施設維持管理のための資金調達方法も学ぶなど、主体的に考え、動き出していて、全国的に見ても小美玉市は文化で住民自治を行う先駆者的存在です。行政と多くの住民が時間と熱量をかけ多様な視点から対話し、良好な関係性を保っていることも感じました。**住民が「わがまち」に関心を持ちながら暮らしている。これは近代社会を構成する主権者という意味で「市民」になっている**ということだと思います。

私は、丸亀市に新設する市民会館を、何を目指してどのように作り、運営すればよいか探りながら計画を進めています。市民共通のテーマは「くらし」にあると考え、特に毎日のくらしの中で課題や困難に直面する方々の声を聞きたくて、これまでに病院や福祉施設、様々な活動の現場を訪れ、延べ3,000人を超える方々と対話を重ねてきました。たどりついたコンセプトは、「豊かな人間性を育む」「誰一人孤立させない」「切れ目のない支え合い」です。こうしてすべての市民に文化の恵みを届ける「みんなの劇場プロジェクト」が始まりました。当初の共感者はほんのわずかでしたが、今ではたくさんの皆さんが応援してくれています。「自分たちで何かをやってみたい！」という声も聞こえてきました。小美玉市での学びを生かし、これからも「劇場をどうするか」ではなく「劇場でまちをどうするか」を考えていきます。

PROFILE

全国公立文化施設協会コーディネーター
水戸 雅彦

2020年まで23年間仙南芸術文化センター（えずこホール）勤務。住民参加型事業、アウトリーチ事業、社会包括型事業に取り組む。ホール、地域内外の学校、福祉施設等250か所以上で1,000回のアウトリーチと700回のワークショップを開催、約8万人が参加。

PROFILE

香川県 丸亀市文化課長
村尾 剛志

香川県内唯一の造園職として、市民球場など都市公園の整備を担当。市民活動・協働推進の仕組みづくりにも関わる。2017年より新市民会館整備を担当。2022年より現職。共著書に『社会的処方－孤立という病を地域のつながりで治す方法』（学芸出版社）。

みの～れパートナーズが水戸雅彦さんを招き、「新しい広場」を考える対話型研修を実施

そもそも
「新しい広場」とは？

2012年に制定された「劇場法」の前文！

- 劇場が目指すべき方向性を明らかにしたもの
- 劇場は、文化芸術を継承、創造、発信する場
- 人々が集い、感動と希望をもたらし、創造性を育む場
- 人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点
- 地域コミュニティの創造と再生を通じて地域の発展を支える機能があると期待されている

特集

「新しい広場」実践者

"New Plaza" practitioner.

取材：藤田 佐知子　撮影：赤上 恵

Team à la carte

来場が困難な方のため出向いて歌声喫茶を企画

「多彩なジャンルを取り揃え、地域の皆さんに自由に選んでもらおう」という趣旨から「アラカルト」とし、2011年7月に結成しました。みの～れ住民プロデューサー育成事業「光と風のステージ」卒業メンバーを中心とした12名で活動。公共施設や古民家、旅館などでライブを企画しています。

「光と風のステージ」を50回実施したことで得られた経験とネットワークは、現在とても役に立っていて、卒業後に再結成を考えていたときに東日本大震災が発生しました。私たちにできることで地元を元気にしたいと思い、親交のあるアーティストたちに声をかけ、みの～れ風のホールで「がんばっぺライブ」と名づけた東日本大震災復興支援ライブを実施しました。

「チーム・アラカルト」結成1周年で企画したのが「歌声喫茶」です。戦後、リーダーの音頭とピアノ・アコーディオンの伴奏で、喫茶店内のお客さんが歌集を見ながら肩を寄せ合って一緒に歌を歌うスタイルが流行りました。チーム・アラカルトの「歌声喫茶」は、公共施設や地域の公民館へ出張し、懐かしい雰囲気を再現しながら、伴奏をギター奏者の太田剛さんに依頼して、1回2時間の企画にして実施しています。歌声喫茶を懐かしむ世代を中心に来場し、大きな反響がありました。「来場が困難な方のために出向いて歌声喫茶を企画し、芸術文化の振興に寄与した」として茨城県から「新しいいばらきづくり表彰」を受賞しました。これからも自分たちが楽しみながら続けていきたいです。

チーム・アラカルト

近田 由美／西川 礼子

音楽を中心とした多彩なジャンルを企画運営する「光と風のステージ」の卒業メンバーたちが、アウトリーチに取り組むため再集結。みの～れでの経験を基に地域における音楽企画をプロデュースしている。

marushi

つどい、学び、磨き、発信する場

まる市

安達 将伍／椙山 早紀

まち・ひと・しごと創生総合戦略「ダイヤモンドシティ・プロジェクト」の一環で実施された実験マルシェに集った仲間によって、新たにみの～れプロジェクトとしてスタート。学びを暮らしに生かすスタイル。

昨年度、公共空間の活用をテーマに連続講座を受講して実証実験マルシェをやってみる、その名も「Omitama Yattemiru project（小美玉やってみるプロジェクト。市企画調整課主催）」に参加しました。普段は会社員、経営者、クリエイターの顔を持つ参加者たちが、暮らしの中でやってみたいことを実験的にやってみる取り組みで、それぞれ体験企画を開発し、JR羽鳥駅前の芝生広場でマルシェ「まる市」を開催。参加者同士で何かしらの形でもう一度やりたいねと話し合い、みの～れに相談に乗ってもらったところ、3か月後に開催される「小美玉さくらフェスティバル」で、子どもたちがアートに関わる仕事を体験できる企画を任せてもらえることになりました。

さくらフェス当日は、みの～れ風のホールが「アートなお仕事」を体験したい子であふれかえるほどの大盛況。成功体験を味わったメンバーたちが「次はどんな企画をやりたいか」を語り出し、主体性が高まりました。そこでコアメンバーを募り、みの～れ自主事業企画公募に手を挙げ、プレゼンテーションに臨んだ結果上位に選定いただき、次年度から正式にみの～れ住民プロジェクト14本のうちの1本として活動を始めることになりました。

「まる市を残したい。続けていきたい」と思った理由は、知り合ったメンバーとのコミュニティを大切にしたいと思ったことと、普段の仕事では出会えない人たちとの交流に非常に高い価値を感じたからです。次年度は、4月の小美玉さくらフェスティバルのほか、秋にも自主企画を行います。小美玉市内で美術、伝統工芸などのアート活動をしている人たち向けに講座を企画し、そこで磨き合う仲間を増やして、ゆくゆくは定期的に「まる市」を開催できたらと思っています。「小美玉市を良くしたい」という想いに共感する人たちが集う場にしていきたいと思います。

みの～れは劇場ですが、音楽・演劇・ダンスなどに限らず、多様なクリエイターたちが集い、学び、磨き合い、発信する場になっていて、懐が深いと感じます。これが「新しい広場」なのでしょうね。

CULTURE REPORT

2024年1月18日 ／ 堅倉小学校

学校アクティビティ事業　邦楽体験

9月5日から3月13日まで、市内全幼保年長児・小5・中1を対象に全26校45回実施しました。この日は堅倉小5年生にcode“M”が邦楽体験授業を実施。プロの演奏に息をのむように集中して体感。琴と鼓を鳴らす体験には大歓声が湧き、コロナ禍で難しい状況にあったこの事業の特長が戻ってきたことを実感。身近な空間だからこそ生み出せる空気感が大切だと感じました。（保田 孝雄）

2024年1月21日 ／ アピオス

アピオス小劇場Vol.48　おとのわンダフル音楽会

4台の管楽器とピアノ伴奏の組み合わせが珍しい、アピオス小劇場「おとのわンダフル音楽会」が開かれ、舞台上の客席は楽しい雰囲気に溢れていました。2部ではワークショップ参加者と一緒に「さんぽ」も演奏、笑顔のコンサートになりました。次回はチーム10年目の節目として楽しい企画でと、代表の前島さんは意気込みを聞かせてくれました。（福島 ヤヨヒ）

2024年1月21日 ／ みの～れ

第36回　茨城の太鼓演奏会

演奏スタイルや衣装などバリエーション豊かな9団体163名による和太鼓の演奏が響き渡りました。今回初の試みとなるジュニアチームは、エネルギッシュで喜びが伝わってくる演奏で、和太鼓文化が次世代へ継承されていることを実感。チラシデザインや写真撮影は市内クリエイターの協力によるもの。たくさんの方の尽力によって、大盛況で幕を閉じました。（藤田 佐知子）

2024年1月28日 ／ みの～れ

こどもミュージカルたいけん

「初めての習い事はみの～れで」なんて声も聞こえてきたミュージカル体験。市内外から集まった50名の子どもたち。学校も学年も違う初対面同士が多くて最初は緊張したけど、演出家の大野さん、俳優の廣木さん、そしてMyuのお姉さんたちと一緒に歌とダンスを練習するうちにすっかり打ち解け仲良しに。今秋公開の新作ミュージカルへの参加を申し込むくらい楽しかったようです。（遠藤 雅樹）

2024年2月10日・11日・12日 ／ みの～れ

みの～れ住民劇団演劇ファミリーMyu　ボクの明日は30年後

Myuで活動する大人メンバーが、舞台上に客席を仮設した小劇場スタイルでオリジナル作品を上演しました。病気のために冷凍睡眠された男性が、眠りから覚めた30年後を描いた物語。お客様は「役者さんの演技が間近でみられて迫力がありました」「素敵なお話で泣けました」と話し、ホワイエでお客様を見送る役者たちは、感動を伝える声に輝く笑顔をみせていました。（加藤 篤子）

2024年2月18日 ／ みの～れ

小美玉市文化協会主催　諸岡由美子チェロコンサート

小美玉市文化協会主催の「諸岡由美子チェロコンサート」が満席のみの～れ森のホールで開催されました。文化協会への理解と加入を勧めようと、毎年講演会やコンサートを行い、会員も慣れない係を楽しみながら音楽に聴き入っていました。能登半島地震の義援金も、市社会福祉事務所に届けられました。アンケートの良かったとの声に笑顔で事業を終えました。（福島 ヤヨヒ）

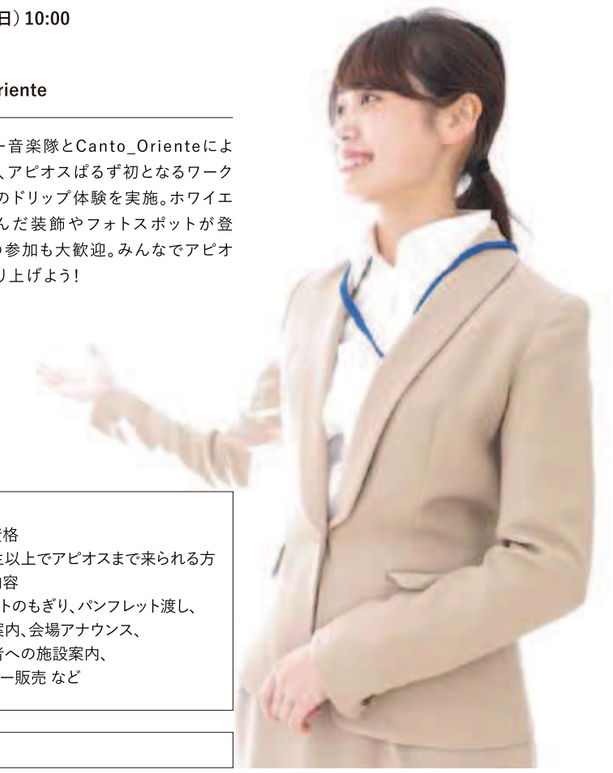
NEWS

NEWS　2024年6月、『アピオスぱるず』は15歳になります。

アピオスぱるず15歳記念イベント　**アピオスぱるずのぱるぱるーざ!!**

- ■日時　6月30日（日）10:00
- ■会場　アピオス
- ■金額　無料
- ■出演　Canto_Oriente

ハッピーバースデー音楽隊とCanto_Orienteによるミニコンサートや、アピオスぱるず初となるワークショップ、コーヒーのドリップ体験を実施。ホワイエには、七夕にちなんだ装飾やフォトスポットが登場！小さいお子様の参加も大歓迎。みんなでアピオスぱるず15歳を盛り上げよう！



ただいま新規会員を募集中です

小川文化センターアピオスの公演スタッフボランティア。それがアピオスぱるず。ぱるず（Pals）は、「仲間」という意味。みんなでアピオスを応援しよう！という仲間意識をもって楽しく活動しています。開場宣言、チケットもぎり、パンフレット配布、客席案内…お客様と一番最初に触れ合うこのポジションは、まさに「アピオスの顔」。ステキな笑顔とおもてなしの心をお客様にお届けします。

- ◆応募資格
  高校生以上でアピオスまで来られる方
- ◆応援内容
  チケットのもぎり、パンフレット渡し、客席案内、会場アナウンス、来館者への施設案内、コーヒー販売 など

■お問い合わせ：0299-58-0921（アピオス）

NEWS　アピオスとみの～れのホームページをリニューアルしました。

今回のリニューアルでは、皆さまにとってより見やすく、そして情報を分かりやすくお伝えできるホームページとなるように、デザインや構成を一新しました。スマートフォンからでも見やすいレイアウトになっていますので、ぜひご覧ください。

アピオス ホームページ

https://apios.city.omitama.lg.jp

みの～れ ホームページ

https://minole.city.omitama.lg.jp

■お問い合わせ：0299-58-0921（アピオス）／0299-48-4466（みの～れ）